

中学校全学年・生徒会活動「身に付けたい力交流会」

生徒会活動（1）生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営

活用したソフトや機能：アンケート機能 学習支援ソフト 表計算ソフト

〈ICT活用のポイント〉

- ①全校規模の大きな集団でのアンケートを短時間で集計することができるため、時間的な負担が軽減できる。
- ②アンケート結果がグラフで表示されるため、掲示物等に活用しやすい。
- ③配付資料を共有ファイルにすることで、印刷や配付の手間を省くことができる。

1 内容について

（1）生徒の実態

1年生40名、2年生48名、3年生47名、全校で135名が在籍している。学校全体が落ち着いた雰囲気、生徒がいかに成長できるかということに集中できる環境が作られている。優しく、一生懸命頑張る生徒が多い。

（2）今年度の生徒会について

今年度の生徒会活動目標は、「仲間を生きし仲間に生かされる学校」で、スローガンは、「“頑張る”を支える」を掲げている。また、この理想の学校に近付けるために、3つの柱に沿って活動している。

本事例に関しては、「柱2～自分を生かすために～『自分のよさや、可能性を認識し、理想に向かって努力できる中学生』」を実現させるための取組として、「身に付けたい力交流会」を行ってきた。この取組は、「自分を生かすためにどのような力を付けたいか」を、一人一人に考えてもらう機会にしたいという思いから生まれた。取組としては、2年目を迎えている。

2 生徒会活動の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解している。 全校の生徒をもって組織する大きな集団での活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けている。	生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 全校の生徒をもって組織する大きな集団における課題解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりしている。	自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活改善を図ろうとしている。 3年間や全校という視点で見通しをもったり振り返ったりしながら、よりよい生活を築こうとしている。

3 本時までの活動の流れ

(1) 事前の指導と生徒の活動

活動の場面	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】（評価方法）
9月22日 帰りの会	事前アンケートの実施(学習支援ソフトの活用)	・学園祭での取組を振り返りながら、自分に必要な力を考えられるように支援する。	◎学園祭の活動を振り返り、自分と向き合い、アンケートに答えている。 【主体的態度】（アンケート、観察）
9月24日 生徒会事務局 放課後	アンケートの結果の確認、グループ分け、進行の打合せ	・話合いの場面を想定しながら、全校生徒を振り分けるように助言する。	◎話合いの目的や自治的な活動の意義について理解している。【知識・技能】（観察）
9月28日 各学級 帰りの会	「身に付けたい力交流会」について、目的の確認と進行についての連絡	・活動の意義や話合いの技術について理解できるように支援する。	◎話合いの目的や自治的な活動の意義について理解している。【知識・技能】（観察）

(2) 本時の指導と生徒の活動

	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】（評価方法）
導入	1 はじめの会 ・目的の確認 ・話合いの進め方の確認	・話合いのねらいや進め方が全員に伝わるように助言する。	
展開	2 交流 ① 【授業を通して身に付けたい力】 ○上級生が交流を進行する。 ○事務局員がサポートする。 ・資料は、クラウド上のデータ	・話合いが主体的に進められるように支援する。	◎積極的に自分の考えを発表し、他者の意見に取り入れ、よりよい生活を築こうとしている。【主体的態度】（観察）
	3 会場全体共有 ○各学年から意見が出るように進める。 〈移動〉 4 交流 ② 【日常生活を通して身に付けたい力】 5 会場全体共有	・事務局員が進める。教師は、内容の方向付けに関わる助言は行わない。	

ま と め	6 振り返りアンケート 7 終わりの会	・これからの生活への意気込みに触れて回答できるように促す。	◎話し合いを踏まえて、授業や日常生活で取り組む具体的な行動を考えている。【思考・判断・表現】（観察、ワークシート）
-------------	----------------------------	-------------------------------	---

（3）事後の指導と生徒の活動

活動の場面	生徒の活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
10月4日 ～ 10月15日	・掲示物の作成 ・重点取組期間の実施	・学活等で取組を意識した生活になるように助言する。	◎他者と協働し生活を改善しようとしている。【主体的態度】（観察）
10月21日	・中間振り返りアンケート	・自分の生活を客観的に評価できるよう助言する。	◎これまでの取組の課題を改善する方策を考えている。【主体的態度】（アンケート、観察）

4 ICTの効果的な活用について

生徒会活動のように大きな集団では、グルーピングやアンケート結果の集計などに多くの時間を割いてきた。今回、学習支援ソフトの機能を利用して、グルーピングのためのアンケートや、実施後のアンケートを行ったところ、大幅に時間を短縮することができた。

C1（発表や話し合い）

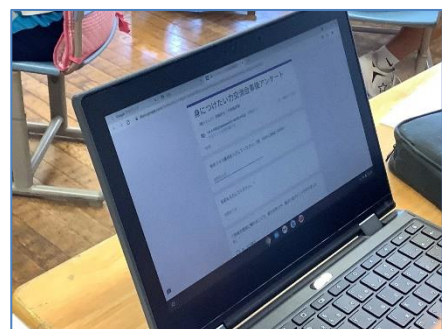
【交流】

- ・各自の端末にグループのメンバーの身に付けたい力や理由が表示され、話し合いの資料として活用されている。
- ・生徒会事務局が進行役をサポートしている。



【振り返りアンケート】

- ・各自の端末に送られたアンケートに回答した。
- ・回答結果を生徒会通信に掲載したり、掲示物の作成に利用したりした。



5 参考資料

(1) 生徒会事務局が大切にしたいこと

これまで生徒会事務局の話合いでは、次のような思いが共有されてきた。

- ・一人一人が理想の自分に近付けるような学校にしたい。
- ・一人一人が大切にされる学校にしたい。
- ・個々が活かされる居心地のよい学校にしたい。
- ・自分と仲間の中に自然と温かさが生まれる学校にしたい。

このような思いを込めて設定した目標を大切に、目標の達成につながる活動を意識してきた。

(2) 具体的な取組

- ① 仲間を生かすために、活動を通して仲間のよいところを発信する。
 - ・幸せボードの取組（仲間のよさや、よかった行動を玄関のボードに記入して共有する。）
 - ・生徒会通信の発行
- ② 自分を生かすために、活動を通して自分のよさや可能性を知り、自己実現の手がかりとする。
 - ・「身に付けたい力」の取組
- ③ 一人一人を生かす集団になるために、活動を通して関わりを増やす。人間関係をつくっていくことで相手のことを知るきっかけをつくる。
 - ・縦割り活動の充実（学園際の部門活動、身に付けたい力：全校交流会）
 - ・話し合い活動の充実（全校フリートーク）
 - ・身だしなみ自主規制の必要ない学校へ

(3) 「身に付けたい力」の取組について

この取組では、自分が選んだ「身に付けたい力」を身に付けるための努力や、「今の自分」と「理想の自分」との距離を縮めるための努力を大事にしている。また、努力する姿を、生徒同士が応援し合える関係を築くことで、生徒会目標の達成に近づくことも目指している。

身に付けたい力	説明
①自己肯定力	達成感を積み重ねて自信を付ける。分かる。できる。上手くなる。強くなる。それが自信になる。
②傾聴力	他者の意見を謙虚に聴く力を身に付ける。素直な人間は成長する。
③思考力	見方、考え方を働かせ、物事に対して何故か、自分はどう考える。という習慣を身に付ける。
④発信力	つまり伝える力。考えを分かりやすく伝える力を身に付ける。伝わるまで動く粘り強さ。
⑤想像力	相手の存在、未来、結果を想像する力を身に付ける。現在地と目標との距離感など。
⑥行動力	自身の考えに基づき行動する力。物事を評価し、改善につなげる力。歩みだし挑戦する力。
⑦関わる力	他者の良さや、個性を理解できる力。考えや気持ちを伝え合い協力できる力。
⑧生かす力	調べる力。行動することの意味を考える力。情報を活かす力。相手の良さを生かす力。
⑨見通す力	将来を見通す力。物事を見分ける力。興味や関心を持ち、学ぶ意味を理解できる力。
⑩見つめる力	自分の良さや、他者との違いを理解できる力。自分の役割が分かる力。ストレスをコントロールできる力。
⑪やり抜く力	【度胸】困難なことに立ち向かう。【復元力】失敗しても諦めずに続ける。 【自発性】自分で目標を見定める。【執念】最後までやり遂げる。